

大空 —放哉だより—

第63号 2016.11.5 発行:小豆島尾崎放哉記念館

尾崎放哉Q&A



Q5. なんで有名な人なのに貧乏なの？

A. 妻と別居後、お寺を転々としている間ほぼ収入はありませんでした。お寺での堂守・庵守の仕事は、そこに住み込み、お経をあげたり掃除や管理、お葬式の手伝い、お寺の雑用などです。住まいと食事がある事が収入代わりとなっていました。

南郷庵では、お遍路さんからのお賽銭はロウソク代となるので、放哉の収入はありませんでした。

放哉は『層雲』という俳誌に投句し、その世界では有名になっていましたが、世間一般に知られるようになったのは、亡くなってからの事です。生前、句集を販売する事はありませんでした。

放哉の名前が世間に知れ渡るきっかけのひとつとして、大阪朝日新聞に掲載された荻原井泉水の一文があります。その後、井泉水が放哉の句をまとめた『大空』という句集を出版（大正15年6月20日）し、『自由律俳人・尾崎放哉』が有名になっていきました。



・・・私は上に「一人の俳人」と書いたがむしろ「一人の人間」といふべきだった。彼の「作」には、ただ一個の眞實な「人間の心」が出てある。それだけだ、然し、このそれだけの如何に尊い事よ。彼は托鉢しつつ放浪し流轉した、しかし彼の生活と心がいいよ、純化してゆくに從つて、彼の作はますます、底光りに光つて來た。彼は又、ぐんぐん句作した。彼の生活がそのまま俳句となり、彼の吐く息がそのまま俳句になつた。彼は本當の意味で「俳人」になつた。・・・

大正15年6月15日付 大阪朝日新聞より抜粋

今回はこれで終了です。特に上記の質問には驚かされました。思いもよらないことでした(◎◎!!)!!
質問をいただくことで、職員も勉強になります。そして児童・生徒のみなさんに「尾崎放哉」を、
どう分かりやすく伝えていこうか考える上で、とても参考になりました。ありがとうございます。



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			



今年も町民の方が、記念館前に菊を置いてくださいました。記念館が明るく見えます。花はこれからどんどん大きく開いてきます。直径20cm以上にもなりますよ❀是非ご観賞ください。

今月のお茶会は山田聰美先生です。

- 放哉だより発行日
- とのしょう広報発行日
- お茶会日
- 休館日
- ☑図書館休館日



11月6日(日)、瀬戸内国際芸術祭2016が閉幕となります。記念館は3会期中、割引協力施設としてお客様をお迎えしました。すべての作品を鑑賞された人、小豆島に来てみたらたまたま芸術祭でしたの人、放哉を知らずに来てくださった方も多く、いろいろなお話しを伺う事が出来ました。

また、今回の芸術祭では外国人の方が多かったように感じました。記念館に立ち寄って下さった方も、尾崎放哉は知らなくても、建物や句碑を写真におさめられていました。日本語、特に漢字は人気がありますね。

性別年代国籍問わず、再び来たいと思ってもらえるような小豆島でありたいですね。